

## 目次

序 「狂」の人間こそ愛するべき。頭脳だけの人間は危険である。…………… 2

### 吉田松陰人物相関図…………… 10

## ■第一章 立志 — 吉田松陰 十〜二十三歳の言葉 —

1 戦法の本であっても、完璧に勝つ方法は、どこにも書かれていない。…………… 14

2 志さえあれば、どんな目標もかなえることができる。…………… 16

3 人材・武器・訓練・作戦の整備を、一日も欠いてはならない。…………… 18

□ 幕末史 1804 — 1846…………… 21

4 平和な時代こそ、新しいものを取り入れることが大切。…………… 28

5 生き生きした心を持つ人は、感動をきっかけにチャンスがめぐってくる。…………… 30

6 「できない」は、「やらない」だけである。…………… 32

□ 幕末史 1828 — 1851…………… 35

7 高い志を持つことが、「究める」ことを可能にする。…………… 42

8 日本に生まれた以上、日本のことを知らなければ、生きていく意味などない。…………… 44

9	心はやはり、飛ぶかのようにだ！……………	46
10	「誠」とは何か。「実行」「専念」「継続」である……………	48
□	幕末史 1852—1853……………	51

## 第二章 狂気 — 吉田松陰 二十四〜二十七歳の言葉 —

11	人の生きざまを知るには、まず、その土地・風土に目を向けるべきだ……………	60
12	法律を破つても、世界を見たい……………	62
13	虎の猛々しさを身に付けなければ、武士になることはできない……………	64
14	どんな子どもになるかは、親の教育次第……………	66
□	幕末史 1854—1855……………	69
15	「やったりやらなかつたり」は、学問においては厳禁である……………	78
16	生きることを楽しみ、死ぬことを楽しむ……………	80
17	人を信じて失敗するのはよい。人を疑って失敗したくない……………	82
18	むやみに「師匠」「弟子」にならない……………	84
19	失敗を隠そうとすることは、恥すべきことである……………	86

20	どんな人間にも、必ずすぐれた部分がある……………	88
□	幕末史 1854—1855……………	92
21	まずは「自分」に目を向ける。それが、着実である……………	100
22	学問とは、「生き方」を学ぶことだ……………	102
23	自らの苦勞を惜しんでいては、世の人々に安定をもたらす人物にはなれない……………	104
24	一ヶ月でダメなら二ヶ月、二ヶ月でダメなら百日……………あきらめてはいけない。	106
25	憂慮すべき事態となっている理由を知らないことをこそ、憂うべきである……………	108
□	幕末史 1856—1858……………	111

## 第三章 留魂 — 吉田松陰 二十八〜二十九歳の言葉 —

26	農民兵に至るまで一定の訓練をすれば、強力な軍団ができる！……………	122
27	外に媚び、内を脅かす者は、「天下の賊」である……………	124
28	民から立ち上がる人を望む以外に、未来の希望はない……………	126
□	幕末史 1858……………	129
29	謀略とは、「ない」のに「ある」かのように振る舞うことだ……………	136

- 30 日本の未来のために、自分は国や主君に尽くす！……………138
- 31 饑舌な人こそ、大事なときには黙り込む。……………140
- 32 読書は人の心を変える。何と恐ろしいものか。……………142
- 幕末史 1858 — 1859……………145
- 33 他人の批評はどうであれ、ありのままに生き抜く。……………152
- 34 命は国家に預けた。生きるも死ぬも、忠誠を尽くす。……………154
- 35 帰っては来られないと思いつめた死出の旅に、涙が止まらない。……………156
- 36 名前を残せたら、いつ死んでもよい。……………158
- 37 大和魂は、この世に置いていく！……………160
- 38 子が親を思う心以上に、親が子を思う心は深い。……………162
- 幕末史 1858 — 1859……………165

#### ■第四章 残志 — 吉田松陰をとりまく人々の言葉 —

- 39 井伊直弼 茶会とは、人生二期一会の出会いである。……………172
- 40 久坂玄瑞 草の根の民が決起する以外に、手立てはない。……………174

- 41 宮部鼎蔵 さあ、子どもたちよ。戦いの支度を！ 御所の桜が散ってしまう前に。……………176
- 42 吉田稔麿 乱れたこの世、どうすればよいのか。……………178
- 43 佐久間象山 私は、世界とつながっていることを知った！……………180
- 幕末史 1860 — 1864……………184
- 44 高杉晋作 面白くないこの世の中を、面白くする。……………192
- 45 品川弥二郎 「錦の御旗」で朝敵を倒すべし！……………194
- 幕末史 1864 — 1868……………197
- 46 木戸孝允 人民は病人、政府は医者である。……………204
- 47 前原一誠 私は死んでも、御恩に背くことはない！……………206
- 48 玉木文之進 百の策略も、一つの誠意にはかなわない。……………208
- 49 山県有朋 私は常に、一人の武士に過ぎない。……………210
- 50 伊藤博文 憲法制定は、「日本の基軸」の確定から、始めなければならない。……………212
- 明治維新史 1868 — 1889……………215